

山大だより

【第2号】 2011年9月12日(月) 編集：豊田龍平



9月定例会合 開催

—あれから、半年
「それでも、活動してゆく」ために—

9月11日は東日本大震災発生から半年が経過した「節目」の日でした。その翌日9月12日に、山形大学人文学部棟1階地域連携資料室にて「山形文化遺産防災ネットワーク(以下、山形ネット)定例会合」が開催されました。

山形ネットの震災発生から約半年間のあゆみ、そして9月9日にネットメンバー3人で訪問した岩手県陸前高田市および遠野市での打ち合わせなどについて報告がありました。

さらに、被災地の要望をどのようにくみとり、山形ネットとしてどのようにこれから取り組んでゆくべきなのか、協議が行われました。いまだ手つかずの資料を抱えながら、—あれから半年、「それでも活動してゆく」ために—私たちはどうするべきなのか、今一度ゆっくりと腰をすえて考える時期に来ているといえそうです。



【column】 あれから、半年… 被災地は、今…



左の写真は、岩手県陸前高田市にある高田松原第一球場の様子です。沿岸部の地盤沈下によって、まるで海の中から球場のライトが突き出ているようでした。匂いについてはあまり気にはなりませんでした。

語り：キョスニム～はるか北海道の大地より～

